

首都大学東京の基礎・教養課程とFD活動

基礎教育センター長・上野淳

基礎ゼミ，都市教養プログラム，実践英語，情報リテラシー実践は，首都大学東京の基礎・教養課程の根幹的な仕組みであり，いずれも全学必修科目と位置づけられている。新大学が発足し，やっと1年度目を終えようとしている現在，これらを真摯に支えて頂いた全学の教員に深甚なる敬意と謝意を表する次第である。

これらの仕組みが，学生や教員にどのように受け止められ，どのように評価されているかについて，前・後期の双方で，基礎教育全般，及び，都市教養プログラム全科目について大規模な調査を行うことができた。これは，本年度のFD委員会の大きな成果といえる。



繰り返し述べてきたように，調査の結果によって現状の課題を発見し，これを授業改善に向けた取り組みに発展させることこそFD活動の本来の趣旨がある。幸いにして，これらの課題発見を受けて，次年度のカリキュラム・時間割への改善の検討，授業内容へのフィードバックなどが始められている。これには，教務委員会・基礎教育部会，及びその傘下での各部会の努力が大きい。この点についても深い感謝の意を表しておきたい。

必ずしも全学教員の賛同と合意で開始されたとは言い難い面がある本学の基礎・教養課程の仕組みも，こうした検討や議論を経て，教員自身の手に取り戻しつつある，との実感がある。教員自らの手で検証し，自らの手で改善に向けた取り組みを行うことが大切であると認識する次第である。

次年度に向けた課題も多く，そして大きい。しかし，都市環境学部では本年度後期から専門課程の授業科目でのFD調査を始めることになるなど，各部局での取り組みも深化しそうな兆候も見え始めている。次年度の主要な課題の一つは，専門課程，及び各部局でのFD活動の発展であると考え。関係各位のご理解とご協力をお願いする次第である。

平成18年1月